

令和3年4月9日

学生各位

教務課学部教務係

令和3年度副専攻プログラムの所属について

本学では平成27年度より、グローバルマネジメント副専攻プログラム（以下、GMP）を、平成30年度より、4つの副専攻プログラム（経済学・ビジネス法務、経営情報・アカウントティング）を実施しています。

本プログラムは、通常4学科の主専攻に加えて学ぶ、地域に軸足を置いて世界で活躍するリーダーを育成するプログラムです。本学の実社会で役立つビジネス教育や語学教育の伝統と、豊富な産官学のネットワークを生かした、戦略的なカリキュラムで学んでいきます。グローバル展開が求められる現代社会において商社や海外展開を予定している企業などで活躍できる人材を育成します。

所属希望者は期日までに必要書類をそろえて、下記【本件に関する問合せ先】にある学部教務係にメールにて提出してください。

【提出期限】

4月30日（金）まで

【提出書類】

GMP	4つの副専攻プログラム
① GMP 所属申請書	① 副専攻プログラム所属申請書
② GMP 所属申請理由書	② 副専攻プログラム所属申請理由書
③ 優れた語学力を証明する書類（※1）	

※1：証明書類は、できる限り直近に受験した検定試験のスコアとする。両面をコピーして提出すること。

【所属決定までの流れ】

GMP	4つの副専攻プログラム
・5月上旬～6月下旬：学内会議	・6月上旬：学部教授会での報告（所属者の決定）
・7月中旬：学部教授会での審議（所属の可否決定）	
・7月中旬：所属の可否について掲示等により学生に通知	
・8月中旬：所属者説明会（オンデマンド）	
・9月下旬：短プロ生と合同でのオリエンテーション（予定）	
・9月下旬：後期から副専攻プログラム開始	

【本件に関する問合せ先】

小樽商科大学教務課学部教務係

Tel：0134-27-5244 Fax：0134-27-5243

E-Mail：gakubu@office.otaru-uc.ac.jp

グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラム要項

(趣旨)

第1条 この要項は、小樽商科大学学則第20条の2第2項の規程に基づき、地域と世界を結び、北海道経済の活性化を担う「グローバル人材」の育成を目的とするグローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラム（以下「副専攻プログラム」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(対象者)

第2条 副専攻プログラムに所属できる者は、本学商学部にて在籍する2年次以上の学生（以下「本学学生」という。）及び特別聴講学生とする。

(所属要件)

第3条 本学学生が副専攻プログラムに所属するためには、いずれかの学科に所属し、かつ次に掲げる各号のすべてに該当する者でなければならない。

(1)所属手続時のGPAが原則として2.5以上の者。（編入学生については、編入学前の所属大学におけるGPAが原則として2.5以上または同等程度の成績と見込まれる者）

(2)優れた語学力を有する者で、次の①から④に掲げる基準のうち、原則としていずれか一の基準を満たす成績を有していること。

① IELTS 5 以上

② TOEIC 550 以上（TOEIC IP のスコアを含む）

③ TOEFL PBT 480 以上又は IBT 56 以上（TOEFL ITP のスコアを含む）

④ 実用英語技能検定 2 級以上

2 特別聴講学生の所属要件は、別に定める。

(所属者数)

第4条 本学学生には毎年度新規に30名程度の所属を認める。

2 特別聴講学生の所属者数は、別に定める。

(所属手続き)

第5条 本学学生が副専攻プログラムに所属するためには、2年次の4月末まで又は3年次の4月末までに、第3条第1項第2号に定めた成績を証明する書類を添えて、「グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラム所属申請書」（別紙1）を学長に提出して承認を得なければならない。

2 特別聴講学生の所属手続きは、別に定める。

(所属者の決定)

第6条 学長は、学部教授会の議を経て、所属者を決定する。

(科目及び単位数)

第7条 副専攻プログラムに関する授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。ただし、年度により授業科目の一部を開講しないことがある。

(修了要件)

第8条 本学学生が副専攻プログラムを修了するためには、小樽商科大学学則第40条及

び第41条に定める卒業が認められ、かつ次の表に掲げる科目区分に定める所定の単位を修得しなければならない。

科目区分	単位数
地域キャリア教育科目	6
グローバル教育プログラム科目	18
言語文化教育科目	6
合計	30

2 本学学生は、第1項表中で示された科目区分に属する授業科目において、小樽商科大学学則第20条で定められた基幹科目、発展科目、自由科目及び専門共通科目に該当する場合は、18単位まで卒業所要単位に含めることができる。

3 特別聴講学生の修了要件は、別に定める。

(修了認定)

第9条 学長は、副専攻プログラムの修了要件を充たした本学学生について、学部教授会の議を経て修了を認定する。

2 前項の修了を認定された本学学生には、様式第1号の修了証書を交付する。

3 学長は、本学学生が副専攻プログラムを修了した場合、成績証明書に副専攻プログラムを修了した旨記載するものとする。

4 特別聴講学生の修了認定は、別に定める。

(事務)

第10条 副専攻プログラムに関する事務は、学生支援課国際交流室の協力を得て、教務課が行う。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、副専攻プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行し、平成25年度本学学部入学生から適用する。

附 則

この要項は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から施行する。

言語文化教育科目	6	上級日本語Ⅰ	2	
		上級日本語Ⅱ	2	
		上級日本語Ⅲ	2	
		上級日本語Ⅳ	2	
		日本事情Ⅰ	2	
		日本事情Ⅱ	2	
		英語上級Ⅰ	2	
		英語上級Ⅱ	2	
		英語上級Ⅲ	2	
		英語上級Ⅳ	2	
		外国語上級Ⅰ	[2]	
		外国語上級Ⅱ	[2]	
		外国語上級Ⅲ	[2]	
		外国語上級Ⅳ	[2]	
		ビジネス英語Ⅰ	2	
		ビジネス英語Ⅱ	2	
		比較文化Ⅰ	2	
		比較文化Ⅱ	2	
		英語コミュニケーションⅠ	2	
		英語コミュニケーションⅡ	2	
アジア・オセアニア事情	2			
ヨーロッパ事情	2			
アメリカ事情	2			

別紙 1

グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラム
所属申請書

令和 年 月 日

小樽商科大学長 殿

学生番号

所属学科

氏 名 ○○○○

私は、小樽商科大学グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラムに所属したいので審査願います。

(添付書類)

- ・優れた語学力を有することを証明する書類
- ・所属学科長の許可書

様式第 1 号

第 号

グローバル教育グローバルマネジメント
副専攻プログラム 修了証書

氏 名 ○○○○

上記の者は小樽商科大学グローバル教育グローバルマネジメント副専攻プログラムを修了したことを証する

令和 年 月 日

小樽商科大学長 ○ ○ ○ ○

グローバルマネジメント副専攻プログラム科目一覧

科目群	単位数	左記に対応する授業科目						備考	算入区分		
		授業科目	必修	選択	配当年次	実施期間	時間割			キャップ外	
地域キャリア教育科目	6単位以上	地域活性化システム論		2	I	夏季集中	-	伊藤一 加賀田和弘 鈴木和弘		共通科目	
		グローバリズムと地域経済		2	I	前期	水1	△高野宏康		共通科目	
		地域学		2	I	前期	金3	李 清民 北川泰治郎 後藤英之		共通科目	
		総合科目Ⅰ	2	I	後期	月5	佐山公一 △高橋大洋 △吉田政宏	a)小橋学	共通科目		
					前期	金2		b)地域とインターネットメディアのリテラシー			
		総合科目Ⅱ		2	I	前期	水3	大津晶 田島貴裕		共通科目	
		総合科目Ⅲ		2	I	後期	水3	佐野博之 大津晶 白田康洋 市原啓善 齋藤健一郎 木村泰知 外		共通科目	
		社会連携実践Ⅰ	2	I	-	-	○	大津晶 松家仁 加賀田和弘 岩本尚種 深田秀実	a.ビジネス・インターンシップ	共通科目	
								大津晶	b.サービス・ラーニング		
								大津晶 外	c.プロジェクト・ラーニング		
社会連携実践Ⅱ	2	I・II	-	-	○	大津晶 松家仁 加賀田和弘 岩本尚種 深田秀実	a.ビジネス・インターンシップ	共通科目			
						大津晶	b.サービス・ラーニング				
						大津晶 外	c.プロジェクト・ラーニング				
社会連携実践Ⅲ	2	II	-	-	○	大津晶 松家仁 加賀田和弘 岩本尚種 深田秀実	a.ビジネス・インターンシップ	学科発展科目			
						大津晶	b.サービス・ラーニング				
						大津晶 外	c.プロジェクト・ラーニング応用				
グローバル教育プログラム科目	18単位以上	グローバルマネジメント入門	2		I	後期	火5	○	近藤公彦 外		商学科発展科目※国際交流科目
		ビジネス経済学Ⅰ	2		I	後期	月3/水3	○	池田真介	秋クォーター	経済学科発展科目※国際交流科目
		ビジネス経済学Ⅱ	2		II	前期	金1/金3	○	池田真介	春クォーター	経済学科発展科目※国際交流科目
		実証研究入門	2		II	後期	月4/月5	○	小野塚祐紀	秋クォーター	経済学科発展科目※国際交流科目
		グローバルフィールドワークⅠ	2		Ⅲ・Ⅳ	前期	-	○	松本朋哉		経済学科/商学科発展科目※国際交流科目
		グローバルフィールドワークⅡ	2		Ⅲ・Ⅳ	後期	-	○	王力勇		経済学科/商学科発展科目※国際交流科目
		日本経済	2		II	前期	月4/月5	○	松本朋哉	春クォーター	経済学科発展科目※国際交流科目
		国際開発協力	2		Ⅲ・Ⅳ	後期	金3/金4		松本朋哉	秋クォーター	経済学科発展科目※国際交流科目
		アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2		Ⅲ	後期	月2/水2	○	王力勇	春クォーター	商学科発展科目※国際交流科目
		世界の中の日本企業	2		Ⅲ	後期	火2/木2	○	王力勇 小林広治	秋クォーター	商学科発展科目※国際交流科目
		日本的経営入門	2		II	前期	月2/木2	○	王力勇 小林広治	夏クォーター	商学科発展科目※国際交流科目
		観光マーケティング	2		II	前期	月2/水2		王力勇	春クォーター	商学科発展科目※国際交流科目
		グローバル経済学特講	2		Ⅲ・Ⅳ					※非開講	経済学科発展科目※国際交流科目
		グローバル商学特講	2		Ⅲ・Ⅳ					※非開講	商学科発展科目※国際交流科目
		グローバルインターンシップⅠ	2		I	通年	-	○	松本朋哉		国際交流科目
		グローバルインターンシップⅡ	2		I	通年	-	○	池田真介		国際交流科目
グローバルセミナーⅠ	2		I	後期	金5	○	森谷亮太		国際交流科目		
グローバルセミナーⅡ	2		II	前期	金5	○	ブラウトカロラス 外		国際交流科目		

グローバルマネジメント副専攻プログラム科目一覧

	グローバルセミナーⅢ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火4/木4	○	松本朋哉 池田真介 王力勇 小林広治		国際交流科目	
				後期	火4/木4	○				
	グローバルセミナーⅣ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火4/木4	○	松本朋哉 池田真介 王力勇 小林広治		国際交流科目	
				後期	火4/木4	○				
	研究論文Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木5	○	松本朋哉 池田真介 王力勇 小林広治		国際交流科目	
			後期	木5	○					
研究論文Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木5	○	松本朋哉 池田真介 王力勇 小林広治				
			後期	木5	○					
外国の大学等に留学して履修した授業科目のうち別に定めたもの						○			※外国の大学等に留学して履修した授業科目の算入可能科目については別に定める。	
言語文化教育科目	6単位以上	上級日本語Ⅰ	2	Ⅰ	前期	火1/木1	山川史		日本語科目	
		上級日本語Ⅱ	2	Ⅰ	後期	火1/木1	山川史		日本語科目	
		上級日本語Ⅲ	2	Ⅱ	前期	火2/木2	山川史		日本語科目	
		上級日本語Ⅳ	2	Ⅱ	後期	火2/木2	山川史		日本語科目	
		日本事情Ⅰ	2	Ⅰ	後期	木3	山川史		日本語科目	
		日本事情Ⅱ	2	Ⅱ					※非開講	日本語科目
		英語上級Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	商学科自由科目
		英語上級Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	月2	サーマンジョン			商学科自由科目
		英語上級Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	商学科自由科目
		英語上級Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	商学科自由科目
		外国語上級Ⅰ（ドイツ語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	火3	副島美由紀			専門共通科目
		外国語上級Ⅰ（フランス語）	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	専門共通科目
		外国語上級Ⅰ（中国語）	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火3	嘉瀬達男			専門共通科目
		外国語上級Ⅰ（スペイン語）	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火3	石井登			専門共通科目
		外国語上級Ⅰ（ロシア語）	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木3	山田久就			専門共通科目
		外国語上級Ⅰ（韓国語）	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火3	△金昌九			専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（ドイツ語）	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（フランス語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木3	ヤヤウセイドリック			専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（中国語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	火3	嘉瀬達男			専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（スペイン語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	火3	石井登			専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（ロシア語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木3	山田久就			専門共通科目
		外国語上級Ⅱ（韓国語）	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	火3	△金昌九			専門共通科目
		外国語上級Ⅲ	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	専門共通科目
		外国語上級Ⅳ	2	Ⅲ・Ⅳ					※非開講	専門共通科目
		ビジネス英語Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木2	クランキーション			商学科自由科目
		ビジネス英語Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期	木2	クランキーション			商学科自由科目
		比較文化Ⅰ	2	Ⅰ	前期	火3	ホルストマーク			商学科英語専修科目（基幹科目）
		比較文化Ⅱ	2	Ⅱ					※非開講	商学科英語専修科目（発展科目）
		英語コミュニケーションⅠ	2	Ⅰ	後期	火3	ホルストマーク			商学科英語専修科目（基幹科目）
		英語コミュニケーションⅡ	2	Ⅱ					※非開講	商学科英語専修科目（発展科目）
		アジア・オセアニア事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			○	ブラートカロラス、クランキーション、池田真介、松本朋哉、猪口純路、山川史、王力勇、小林広治、森谷亮太、カルヤヌダニエラ		専門共通科目
		ヨーロッパ事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			○			専門共通科目
アメリカ事情	2	Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ			○			専門共通科目		

令和3年度国際交流科目（GMP グローバル教育プログラム科目群） の開講予定について

令和3年4月時点で、国際交流科目（グローバル教育プログラム科目群）の開講科目は以下の通りです。

科目名	単位数	配当年次	開講期	時間割
グローバルマネジメント入門	2	I	後期	火5
ビジネス経済学Ⅰ	2	I	後期（秋ク）	月3・水3
ビジネス経済学Ⅱ	2	Ⅱ	前期（春ク）	金1・金3
実証研究入門	2	Ⅱ	後期（秋ク）	月4・月5
グローバルフィールドワークⅠ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期（夏ク）	※1
グローバルフィールドワークⅡ	2	Ⅲ・Ⅳ	後期（冬ク）	※1
日本経済	2	Ⅱ	前期（春ク）	月4・月5
国際経済協力	2	Ⅲ・Ⅳ	後期（秋ク）	金3・金4
アジア太平洋におけるマーケティング戦略	2	Ⅲ	後期（秋ク）	月2・水2
世界の中の日本企業	2	Ⅲ	後期（秋ク）	火2・木2
日本的経営入門	2	Ⅱ	前期（夏ク）	月2・水2
観光マーケティング	2	Ⅱ	前期（春ク）	月2・水2
グローバルインターンシップⅠ	2	I	前期（夏ク） 後期（冬ク）	※2
グローバルインターンシップⅡ	2	I	前期（夏ク） 後期（冬ク）	※2
グローバルセミナーⅠ	2	I	後期	金5
グローバルセミナーⅡ	2	Ⅱ	前期	金5
グローバルセミナーⅢ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火4 or 木4
			後期	火4 or 木4
グローバルセミナーⅣ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	火4 or 木4
			後期	火4 or 木4
研究論文Ⅰ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木5
			後期	木5
研究論文Ⅱ	2	Ⅲ・Ⅳ	前期	木5
			後期	木5

注意1：開講時期、時間割、履修登録方法が変則的となります。以下をご確認ください。

注意2：シラバスの変更が発生した場合は、manabaの各科目コースニュースよりお知らせします。

春ク（春クォーター）：前期の前半15回（週2回授業）＋ まとめ

夏ク（夏クォーター）：前期の後半15回（週2回授業）＋ まとめ

秋ク（秋クォーター）：後期の前半15回（週2回授業）＋ まとめ

冬ク（冬クォーター）：後期の後半15回（週2回授業）＋ まとめ

※1 グローバルフィールドワークⅠ・Ⅱについては、後日詳細を掲示にてお知らせします。

※2 グローバルインターンシップⅠ・Ⅱについては、後日詳細を掲示にてお知らせします。

令和3年度 グローバル教育プログラム科目群履修に注意が必要な 科目・履修登録方法について

令和3年度のグローバル教育プログラム科目群の一部科目について、開講時期・履修登録方法等が変則的になります。下記を必ず確認し、必要手続きを行ってください。
未定となっている科目については、時間割等が確定次第、通知します。

1. クォーター制について

【クォーター制とは】

1学期間をそれぞれ前半・後半の2つの期間に分けた「春クォーター・夏クォーター・秋クォーター・冬クォーター」とし、各クォーターにおいて、週2回×8週（15回）（2単位の場合）で授業を行います。

前期 (Spring Semester) 4月～9月		後期 (Fall Semester) 10月～3月	
春クォーター	夏クォーター	秋クォーター	冬クォーター

【クォーター科目の履修登録について】

春クォーター=前期科目、秋クォーター科目=後期科目という扱いとなりますので、前期の履修登録期間内に Campus Square から履修登録を行ってください。
※前期履修登録期間に後期科目を含め、1年間分の履修登録を行ってください。

【クォーター科目の履修取消について】

各クォーターの中間期に履修取消期間を設けます。前期・後期の履修取消期間と期間が異なりますので、注意してください。

- ・春クォーター科目の履修取消期間：5/6（木）～5/12（水）
- ・夏クォーター科目の履修取消期間：7/8（木）～7/14（水）
- ・秋クォーター科目の履修取消期間：10/25（月）～10/29（金）
- ・冬クォーター科目の履修取消期間：12/1（水）～12/7（火）

【定期試験】

科目担当教員の指示に従ってください。

【成績開示について】

Campus Square からの成績閲覧開始は、以下となります。

前期科目（春クォーター・夏クォーター）：9/1（水）～

後期科目（秋クォーター）：3/1（火）～

※冬クォーター科目については、各授業終了後、成績確定時期に応じて成績開示を行います。

2. 国際交流科目（グローバル教育プログラム科目群）履修登録について

国際交流科目（グローバル教育プログラム科目群）は、以下の科目を除き、履修登録期間に Campus Squareにて登録を行ってください。

- ・グローバルセミナーⅢ
- ・グローバルセミナーⅣ
（制限）グローバルセミナーⅢを修得済であること。
- ・研究論文Ⅰ
（制限）旧科目名：研究論文を修得済の学生は履修できません。
（制限）グローバルセミナーⅢを履修（または修得済）していないと履修できません。
- ・研究論文Ⅱ
（制限）旧科目名：研究論文を修得済の学生は履修できません。
（制限）グローバルセミナーⅣを履修（または修得済）していないと履修できません。
- ・グローバルインターンシップⅠ・Ⅱ
- ・グローバルフィールドワークⅠ・Ⅱ

3. グローバルセミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ及び研究指導について

令和3年度は以下の通り開講します。

担当教員については、GMPプログラム科目一覧よりご確認ください。

後期（金5）：グローバルセミナーⅠ

前期（金5）：グローバルセミナーⅡ

前期（火4 or 木4）：グローバルセミナーⅢ、グローバルセミナーⅣ

後期（火4 or 木4）：グローバルセミナーⅢ、グローバルセミナーⅣ

前期 or 後期（木5）：研究論文Ⅰ

前期 or 後期（木5）：研究論文Ⅱ

小樽商科大学副専攻プログラム要項

(趣旨)

第1条 この要項は、小樽商科大学学則（以下「学則」という。）第20条の2第2項の規定に基づき、小樽商科大学が開設する副専攻プログラム（以下「副専攻プログラム」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 副専攻プログラムは、地域社会の諸課題をグローバルな視点から分析し、実際に解決できることを目的としており、所属する学科以外の専門分野の体系的な学習を促すとともに、その学習成果を認証する制度である。

(対象者)

第3条 副専攻プログラムに所属できる者は、本学商学部在籍する2年次以上の学生（以下「本学学生」という。）とする。

(所属手続き)

第4条 本学学生が副専攻プログラムに所属するためには、2年次、3年次又は4年次の4月の指定された期日までに、「副専攻プログラム所属申請書」（別紙1）を学長に提出して承認を得なければならない。

(副専攻プログラムの種類及び名称)

第5条 副専攻プログラムは、以下に掲げるプログラムとする。

(1) 学科等提供型

① 経済学（経済学科）

経済学に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

② ビジネス法務（企業法学科）

ビジネス法務に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

③ 経営情報（社会情報学科）

経営情報学に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

なお、本学学生は、所属する学科が提供する副専攻プログラムに所属することはできない。

(2) 学科等横断提供型（1プログラム）

① アカウンティング（商学科及び企業法学科）

会計に関する幅広い視野と問題解決能力、会計の理論に関する専門知識を学び、会計関連分野をより体系的に学ぶことを目的とする。

なお、本学学生は、学科の所属に関係なく、当該副専攻プログラムに所属することができる。

(科目及び単位数)

第6条 副専攻プログラムの授業科目及び履修方法等は、別表のとおりとする。

(修了要件)

第7条 本学学生が副専攻プログラムを修了するためには、小樽商科大学学則第40条または第41条に定める卒業が認められ、かつ、次の表に定める所定の単位を修得しなければならない。

種類	科目群	単位数
学科等提供型	グローバル教育科目群	10
	学科科目群	20
	合計	30
学科等横断提供型	グローバル教育科目群	10
	学科横断型科目群	20
	合計	30

2 本学学生は、第1項表中で示された科目群に属する授業科目において、「グローバル教育科目群」については8単位を、「学科科目群」又は「学科横断科目群」については16単位を卒業所要単位に含めることができる。

(修了認定)

第8条 学長は、副専攻プログラムの修了要件を充たした本学学生について、学部教授会の議を経て修了を認定する。

2 前項の修了を認定された本学学生には、様式第1号の修了証書を交付する。

3 学長は、本学学生が副専攻プログラムを修了した場合、成績証明書に副専攻プログラムを修了した旨記載するものとする。

(事務)

第9条 副専攻プログラムに関する事務は、教務課が行う。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、副専攻プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行し、平成30年度本学学部入学生から適用する。

附 則

1 この要項は、令和2年4月1日から施行する。

2 令和2年3月31日以前に入学した者の別表の取扱いについては、なお従前の例による。

附 則

この要項は、令和3年4月1日から施行する。

別表

(1) グローカル教育科目群

授業科目	単位数	配当 年次	必修	選択	備考
総合科目Ⅰ	6	I		2	3科目6単位以上を選択 必修 (6単位まで卒業所要単 位に算入できる)
総合科目Ⅱ(社会科学と職業)		I		2	
総合科目Ⅲ(エバーグリーン講座)		I		2	
基礎ゼミナール		I		2	
地域活性化システム論		I		2	
グローバリズムと地域経済		I		2	
地域学		I		2	
社会連携実践Ⅰ		I		2	
社会連携実践Ⅱ		I・Ⅱ		2	
社会連携実践Ⅲ		Ⅱ		2	
ビジネス経済学Ⅰ	4	I		2	2科目4単位を選択必修 (卒業所要単位への算入 が可能な科目のうち、2 単位まで卒業所要単位に 算入できる)
ビジネス経済学Ⅱ		Ⅱ		2	
実証研究入門		Ⅱ		2	
グローバルフィールドワークⅠ		Ⅲ・Ⅳ		2	
グローバルフィールドワークⅡ		Ⅲ・Ⅳ		2	
日本経済		Ⅱ		2	
国際開発協力		Ⅲ・Ⅳ		2	
アジア太平洋におけるマーケティング 戦略		Ⅲ		2	
世界の中の日本企業		Ⅲ		2	
日本的経営入門		Ⅱ		2	
観光マーケティング		Ⅱ		2	
グローバル特講		Ⅲ・Ⅳ		2	
グローバル経済学特講		Ⅲ・Ⅳ		[2]	
グローバル商学特講		Ⅲ・Ⅳ		[2]	
英作文Ⅰ		Ⅱ		2	
英作文Ⅱ		Ⅱ		2	
英語コミュニケーションⅠ		I		2	
英語コミュニケーションⅡ		Ⅱ		2	
英語コミュニケーションⅢ		Ⅱ		2	
英語コミュニケーションⅣ		Ⅱ		2	
比較文化Ⅰ		I		2	
比較文化Ⅱ		Ⅱ		2	
比較文化Ⅲ		Ⅱ		2	
比較文化Ⅳ		Ⅱ		2	
英語上級Ⅰ		Ⅲ・Ⅳ		2	
英語上級Ⅱ		Ⅲ・Ⅳ		2	
英語上級Ⅲ		Ⅲ・Ⅳ		2	
英語上級Ⅳ		Ⅲ・Ⅳ		2	
アジア・オセアニア事情		I・Ⅱ・Ⅲ		2	
ヨーロッパ事情		I・Ⅱ・Ⅲ		2	
アメリカ事情	I・Ⅱ・Ⅲ		2		

(2) 学科科目群 ア

学科等名：経済学科

副専攻プログラム名称：経済学

副専攻プログラムの概要：経済学に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

授業科目		単位数	配当年次	必修	選択	備考	
基礎経済学	基幹科目	マクロ経済学	20	Ⅱ		4	20単位を選択必修 (16単位まで卒業所要 単位に算入できる)
		ミクロ経済学		Ⅱ		4	
		統計学		Ⅰ		2	
		経済史		Ⅱ		2	
		計量経済学		Ⅱ		4	
	発展科目	現代経済理論Ⅰ		Ⅲ・Ⅳ		2	
		現代経済理論Ⅱ		Ⅲ・Ⅳ		2	
		数理統計学		Ⅲ・Ⅳ		2	
		経済データ解析論		Ⅲ・Ⅳ		4	
		経済学史		Ⅲ・Ⅳ		4	
		日本経済史		Ⅱ		2	
		外国経済史Ⅰ		Ⅲ・Ⅳ		4	
	外国経済史Ⅱ	Ⅲ・Ⅳ			4		
	応用経済学	基幹科目		国際経済学	Ⅱ		
発展科目		公共経済学	Ⅲ・Ⅳ		4		
		労働経済学	Ⅱ		4		
		産業組織論	Ⅲ・Ⅳ		4		
		財政学	Ⅲ・Ⅳ		4		
		金融論	Ⅲ・Ⅳ		4		
		国際金融と世界経済	Ⅲ・Ⅳ		4		
		現代ファイナンス理論	Ⅲ・Ⅳ		4		
		国際貿易理論	Ⅲ・Ⅳ		2		
国際マクロ経済学	Ⅲ・Ⅳ		4				
基幹科目	経済数学	Ⅱ		2			
	経済学入門Ⅰ	Ⅰ・Ⅱ		2			
	経済学入門Ⅱ	Ⅰ・Ⅱ		2			

※経済学科の学生は、本副専攻プログラムを履修することができない。

(2) 学科科目群 イ

学科等名：企業法学科

副専攻プログラム名称：ビジネス法務

副専攻プログラムの概要：ビジネス法務に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

授業科目	単位数	配当年次	必修	選択	備考
民法・基礎Ⅰ	6	I・Ⅱ	2		6単位が必修 (6単位まで卒業所要単位 に算入できる)
商法Ⅰ		Ⅱ	4		
民法・基礎Ⅱ	8	Ⅱ		2	8単位を選択必修 (8単位まで卒業所要単位 に算入できる)
民法Ⅱ		Ⅱ		4	
民法Ⅲ		Ⅲ・Ⅳ		4	
商法Ⅱ		Ⅲ・Ⅳ		4	
商法Ⅲ		Ⅲ・Ⅳ		4	
労働法		Ⅲ・Ⅳ		4	
憲法・基礎Ⅰ	6	I・Ⅱ		2	6単位を選択必修 (2単位まで卒業所要単位 に算入できる)
憲法・基礎Ⅱ		Ⅱ		2	
行政法Ⅰ		Ⅲ・Ⅳ		4	
刑法Ⅰ		Ⅱ		4	
憲法Ⅱ		Ⅱ		4	
行政法Ⅱ		Ⅲ・Ⅳ		4	
租税法		Ⅲ・Ⅳ		2	
民法Ⅳ		Ⅲ・Ⅳ		2	
刑法Ⅱ		Ⅱ		2	
国際法		Ⅱ		4	
国際機構論		Ⅱ		2	
基礎法特講		Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		[2]	
経済法		Ⅲ・Ⅳ		4	
知的財産法		Ⅲ・Ⅳ		4	
社会保障法		Ⅲ・Ⅳ		4	
国際経済法		Ⅲ・Ⅳ		4	
企業法特講	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		[2]		

※企業法学科の学生は、本副専攻プログラムを履修することができない。

※ 単位欄中の数値に[]が付いている授業科目は、複数の講義題目により行われる場合、それぞれ一の授業科目として履修することができる。

(2) 学科科目群 ウ

学科等名：社会情報学科

副専攻プログラム名称：経営情報

副専攻プログラムの概要：経営情報に関する基礎的な知識を得ることを目的とする。

授業科目		単位数	配当年次	必修	選択	備考
基幹科目	情報処理基礎	20	I・II		2	20単位を選択必修 (16単位まで卒業 所要単位に算入でき る)
	経営システム基礎		II		2	
	情報システム管理論		II		2	
	知識科学基礎		II		2	
	オペレーションズリサーチ		II		2	
	統計科学		II		2	
発展科目	プロジェクトマネジメント		II		2	
	組織コミュニケーション論		II		2	
	デジタルデザイン論		II		2	
	情報数理		II		2	
	システム戦略論		III・IV		2	
	組織情報論		III・IV		2	
	社会情報論		III・IV		2	
	情報システム構築論		III・IV		2	
	ビジネスシステム論		III・IV		2	
	社会計画 I		II		2	
	社会計画 II		III・IV		2	
	計画科学 I		III・IV		2	
	計画科学 II		III・IV		2	
	意思決定論 I		III・IV		2	
意思決定論 II	III・IV		2			
認知科学	III・IV		2			
情報と職業	III・IV		2			

※社会情報学科の学生は、本副専攻プログラムを履修することができない。

(3) 学科横断型科目群 ア

副専攻プログラム名称：アカウンティング

副専攻プログラムの概要：会計に関する幅広い視野と問題解決能力、会計の理論に関する専門知識を学ぶ。
本副専攻は、プログラムでの学習を通じて主として会計関連分野をより体系的に学ぶことを目的とする。

授業科目		単位数	配当年次	必修	選択	備考
選択必修科目	簿記原理（商学科・会計学）	20	I	8	2	8単位を選択必修 (8単位まで卒業所要単位に算入できる)
	応用簿記（商学科・会計学）		II		2	
	財務会計論（商学科・会計学）		II		4	
	原価計算論（商学科・会計学）		II		4	
	管理会計論（商学科・会計学）		III・IV		4	
基幹科目	経営管理論（商学科・経営学）		II		4	
	民法・基礎Ⅰ（企業法学科・基礎法）		I・II		2	
	民法・基礎Ⅱ（企業法学科・基礎法）		II		2	
	商法Ⅰ（企業法学科・企業法）		II		4	
発展科目	財務管理論（商学科・経営学）		III・IV		2※1	
	監査論（商学科・会計学）	III・IV		4		
	国際会計論（商学科・会計学）	III・IV		4		
	税務会計論（商学科・会計学）	III・IV		4		
	民法Ⅱ（企業法学科・基礎法）	II		4		
	民法Ⅲ（企業法学科・基礎法）	III・IV		4		
	商法Ⅱ（企業法学科・企業法）	III・IV		4		
	国際経済法（企業法学科・企業法）	III・IV		4		

※1 学則上は4単位だが、2単位で運用

【留意事項】

- ・ 学生は、学科の所属に関係なく、本副専攻プログラムを履修することができる。
- ・ 本副専攻プログラムは、公認会計士試験ないし税理士試験の受験を想定したものではない。